



坂本 音華 (さかもと おとか) 松枝小 4年生

作品名：「みんなのバリアフリー」を読んで

図 書：みんなのバリアフリー

私は、心のバリアフリーという本を読みました。なぜこの本を読んだかという、しょう害をもつ人の生活や、色々なことが知りたいと思ったからです。

このお話は、あらたくんと、みゆきちゃんがしょう害を持つ人にとっての、バリアフリーって何だろうと勉強していくお話です。

バリアフリーとは、バリア（かべ）を取りのぞくという意味です。色々な障がいがある、みんながそれぞれ安心、安全に気持ちよくくらす社会にしようという考えかたのことです。

私はこの本を読んで、あらた君がしょう害者を助ける知しきもないのに、町で見かけた目の見えない人に手をさしのべたことにより、ぎゃくにしょう害のある人に、めいわくをかけてしまったという部分が心にのこりました。そしてもう一つ、目の見えない人や耳の聞こえない人を特別あつかいするのも、バリアになってしまうということを学びました。しょう害者を見て「かわいそう」など思ってつい、特別あつかいしてしまうことがあります。それは相手に対して、とても失礼なことだそうです。しょうがいのある人を見て、かわいそうなど思うのは悪いことではなないけれど、顔やたい度に出さない方がいいと、いうことを知りました。しょう害を物つ人の中には、よく知らない人に「かわいそう」だと思われると、いやな気持ちになる人もいるからだそうです。

バリアには大きく分けて、物理的なバリア、せい度的なバリア、じょうほうや文化のバリア、心のバリアの四つあるそうです。この四つの中で、心のバリアが一番身近で、だれでも考えられるし、心のバリアを取りのぞくことは、その他のバリアフリーを実現することにもつながるそうです。

私はこまっている人を助けたことはあるけど、しょう害を物つ人を助けたことはまだありません。けど、二年生の時に手話にきょう味をち今もならいつづけています。ならっている手話がいつ役立つかわからないけれど、もしそういうことがあれば、自分の習っている手話とこの本で学んだことをいかせたらな、と思います。

まずはこまっている人がいたら「何かお手伝い出来ることはありますか？」という声をかけられたらいいなと思います。